

越ヶ谷御殿周辺の古道

法人 NPO 越谷市郷土研究会

加藤 幸一

「越ヶ谷瓜の蔓」に見る越ヶ谷と越ヶ谷御殿

加藤 幸一

「越ヶ谷瓜の蔓」は、福井猷貞が文化文政年間に書いた越ヶ谷町に関する地誌である。

〔原文〕

一、越ヶ谷と申名目ハ、奥州筋より登り候ニハ大沢の芝生川原より山の如き御殿地相見、元荒川之谷を越村と号せし也、其後町二成、小名相分レ申候ハ御高札元本村と云を本町と云、又慶安後、中町橋向ハ新規之町ゆへ新町と云、会田出羽持切之所ゆへ一組中町と号、二七市日ハ本町・中町ハ一並日也、元本道なれ共日光道筋二相成申候儘横町と唱、中町本町之裏故袋町と唱、又其裏通御殿下というハ御主殿下通也、

〔意訳〕

一つ、「越ヶ谷」という名称のいわれは、奥州街道筋を北から江戸に向かって上って行き、大沢の元荒川の芝生の河原より対岸を見上げると、御殿の土地（元荒川の自然堤防の小高くなった土地で、大正年間かなり削られた※1）が山のように見えて、元荒川の周辺の低地の谷を越す村という意味から由来する。その後、町になり、町の中に小さな土地名が発生していくつかに分かれ、大沢橋たもとの南詰め東側の高札場のある一帯の元の本村を「本町」というようになる。また慶安年間（一六五〇年頃）以降、本町から見て、日光街道に架かる中町橋（橋の下には六本木落とし堀が観音横丁の通りの南側に沿って元荒川に流れ注いでいる）の東の観音横丁の通りの南側の方と西の赤山街道（現在の越ヶ谷小学校の南側の通り）の南側の方は、新規の町のため「新町」という。ご存知の会田出羽家の持ち分の中町橋の北側の一帯は、越ヶ谷宿（※2）の途中にあるゆえに、ひとまとめにして「中町」という。二七の市の日の本町と中町とも同じ日に行われる。元の奥州道の本道であった観音横丁の通り（南百から元荒川に沿ってやってくる土手道の古奥州道から西方に折れて続く通り）が、奥州道筋から日光道筋になってから「横町」と呼ばれるようになる。中町と本町の東方の裏側一帯は袋のように成立した町なので、「袋町」と呼ばれ、また、その元荒川側の裏通りの「御殿下」というのは「御主殿下通り」のことである。

※1. 増林のお茶や御殿からこの地に移ってきたのは慶長九年（一六〇四）である。

「山の如き御殿地」は、高崎力氏によると、大正年間はかなり削られてしまい、その削った土は対岸の大沢側の河川敷に埋められて、現在は宅地化されているという。

その頃は、まだ古奥州道に頼り、直線の日光街道（日光道中）はできていないのである。

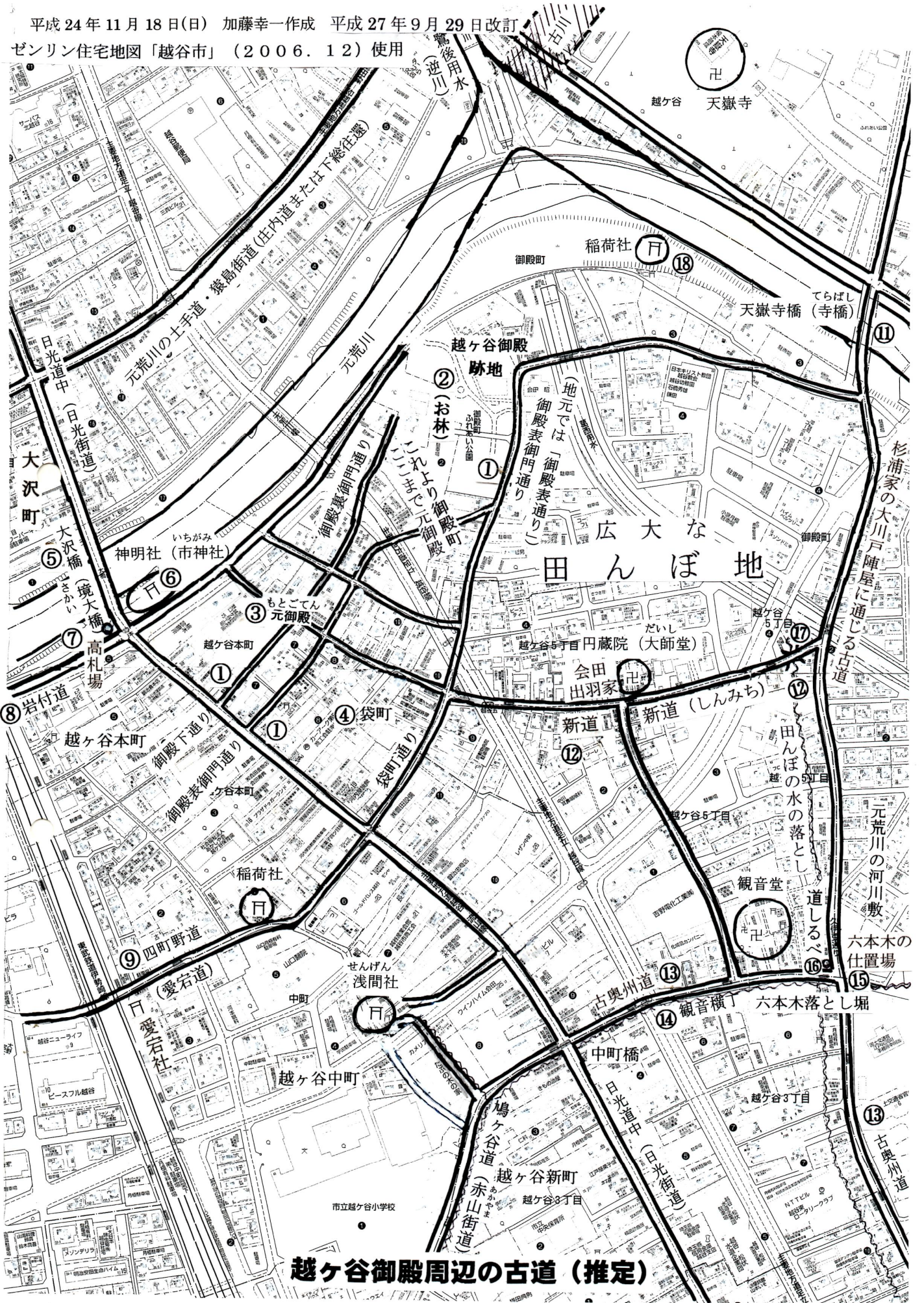
※2. 越ヶ谷宿が成立したのは、私見ではあるが元和二年（一六一六）頃であろう。

※次の頁の地図中にある「元御殿」の地名の意味

旧道（日光街道）と新道（足立越谷線）に挟まれたこの辺りに、「元御殿」という地名が残っている。これは、この地までかつては御殿の敷地内であったことを意味しているのであろう。

当時は、日光街道はまだできていなかったから、御殿は古奥州道のそばにできた。結果的には後の日光街道から離れた所となってしまうのであろう。

平成二十五年一月八日作成



越ヶ谷御殿周辺の古道 (推定)

「越ヶ谷御殿周辺の古道」の地図解説

加藤 幸一

①二本の御殿道・・・日光街道から越ヶ谷御殿に行く道。

御殿下通りと御殿表御門通りの二本があった。

②お林（はやし）・・・「お林」と呼ばれたこの地域が越ヶ谷御殿のあった所と伝えられる。

御殿地は、こんもりとした高い土地であった。

江戸時代に書かれた「越ヶ谷瓜の蔓」には、「山の如き御殿地」と表現している。

③元御殿（もとごてん）・かつては、この地域まで越ヶ谷御殿の敷地であったからこのように呼ばれたのだろうか。

④袋町（ふくろちよう）・職人の町。

⑤大沢橋・・・正式には「大橋」と言い、かつては武蔵国と下総国との境にある橋であったため、

「境大橋」「境板橋」とも呼ばれた。

⑥市神（いちがみ）社・神明社とも呼ばれる越ヶ谷本町の鎮守。

越ヶ谷に開かれた二と七の六斎市（ろくさいいち）の市場の守り神。

⑦高札場・・・大沢橋のたもとに、人々に知らせる立て札である高札場があった。

⑧岩付（いわつき）道・岩槻に行く古道。

⑨四町野道・・・日光街道から四町野村（現在の宮本町）に行く古道。

（しちようのみち）途中、愛宕社があるので、「愛宕道」とも呼ばれた。

⑩鳩ヶ谷道・・・地元では「鳩ヶ谷道」と呼ばれ、日光街道から鳩ヶ谷に行く古道。赤山陣屋に通じる。

⑪寺橋（てらばし）・・・現在は、「宮前橋」と呼ばれている。

江戸時代は「天嶽寺橋」と呼ばれた。

⑫新道（しんみち）・・・文政年間に会田出羽家によって新しく作られた会田出羽家から越ヶ谷の久伊豆神社に

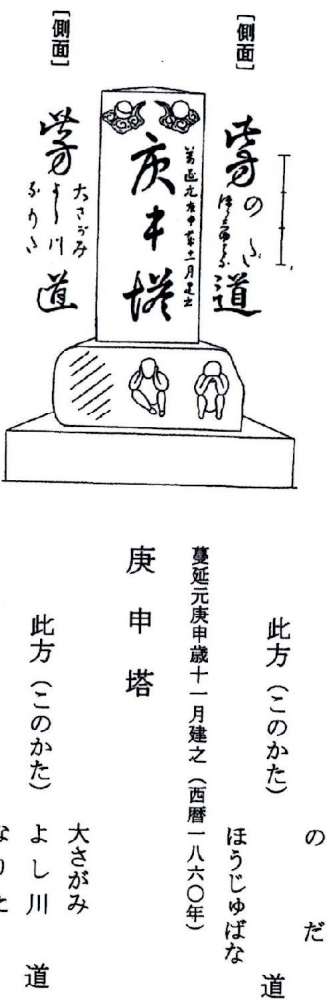
行く古道。新しく作られた道という意味で、「新道」と名付けられたと思われる。

⑬古奥州道・・・江戸時代以前からあった古道。

⑭観音横丁・・・沿道に観音堂があるので、このように呼ばれた。

⑮六本木の仕置場・・・ここで処刑が行われた。

⑯観音横丁の丁字路角の六本木にあった庚申塔（こうしんとう）の道標（道しるべ）・現在、中町の箕輪家保管

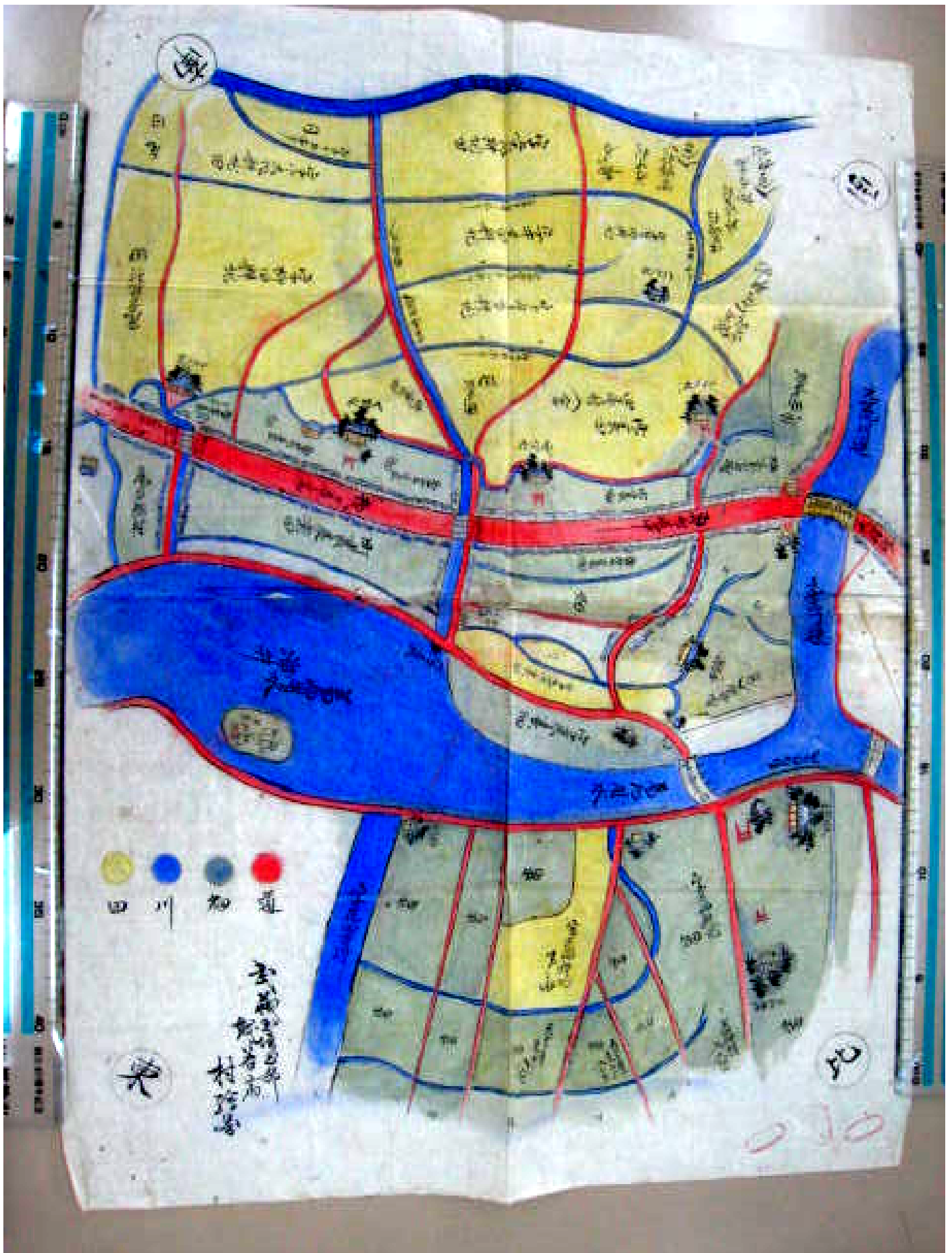


- ⑰汨橋・・・六本木の仕置場と関係していて、罪人とその家族が涙を流して別れる橋という意味であろう。
 - ⑱稲荷社・・・社殿には3代將軍家光の書いた額があったが、明治20年ころに盗難にあって、今はないという。
- この稲荷社は、越ヶ谷御殿と関連する越ヶ谷御殿ゆかりの社であろう。

※右記の裏付けとなる参考資料は、原資料として加藤幸一著「古絵図解説」（越谷市立図書館二階所蔵）、特に資料番号42「越ヶ谷宿村絵図」。古奥州道は、加藤幸一著「江戸時代以前の越谷を通る古奥州道」（会報第十六号「古志賀谷」）、越ヶ谷御殿は、加藤幸一著「越ヶ谷瓜の蔓に見る越ヶ谷と越ヶ谷御殿」を参照のこと。

江戸期 越ヶ谷宿・村絵図 No5 (全体)

絵図類の部 資料番号 42







※寺橋（てらばし、現・宮前橋）は、江戸時代に「天嶽寺橋」と呼ばれていたことがわかる。
 ※元荒川を地蔵橋が架かる現在の逆川が元荒川に合流する地点の天嶽寺の裏で締め切ったためにできた古川（天嶽寺の裏を通り、花田の周りをめぐった元荒川）が、天嶽寺の裏に水路のように直線で描かれている。



越ヶ谷地域の神社仏閣



天嶽寺



越ヶ谷の久伊豆社



新道しんみちの円蔵院（大師堂）



大沢橋、越ヶ谷宿いちがみの市神社、高札場



越ヶ谷中町せんげんの浅間社



越ヶ谷新町はちまんの八幡社



越ヶ谷新町の薬師堂



小林村の瓦曾根溜井の水神社



四丁野村の今はなき愛宕社と雷電社



※四丁野村の愛宕社は、江戸時代は東武鉄道の東側の四丁野道の南側、現在の中町3の場所に中町の浅間社と同じように小山の上にあった。このあたりまで四丁野村であった。その後、現在の「健美の湯」の北側駐車場の北隣（宮本町二丁目186の西隣、かつての会田太郎兵衛屋敷内）に移されたが、現在はそれも壊されて更地となった。